

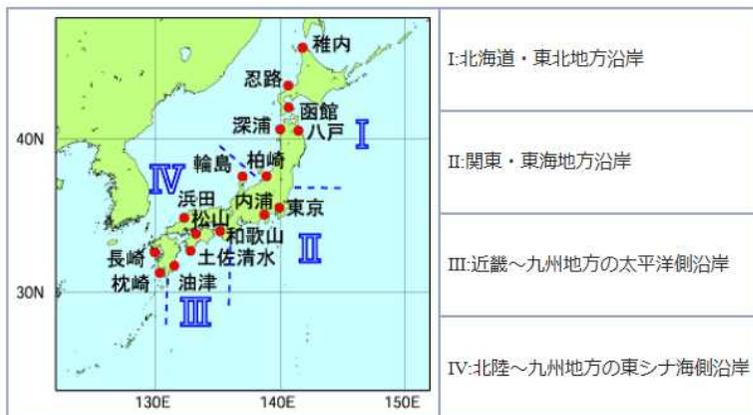
朔望平均満潮位の再整理結果

令和2年3月27日

海面水位上昇率と朔望満潮位上昇率の傾向比較

- 第3回委員会では、日本沿岸の気象庁検潮所(離島を除く計81地点)から地殻変動等の影響が大きい8地点を除いた計73地点を選定し、データ解析を実施。
- 解析した朔望満潮位の上昇率は4海域平均で4.7mm/年(1993~2010年)(速報値)。

■ 日本周辺の1960年以降の海域ごとの海面水位上昇率(気象庁解析結果)



解析に用いた、地殻変動の影響が小さい16地点の検潮所と海域

東京は1968年以降のデータを使用している。
 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の影響を受けた函館、深浦、柏崎、東京、八戸は、2011年以降のデータを使用していない。

各海域の年あたりの上昇率(mm/年)

	I	II	III	IV	4海域の平均	世界平均 (IPCC第5次評価報告)
1960~2018年	1.2[0.9~1.4]	*	1.1[0.7~1.5]	2.4[2.1~2.7]	1.3[1.0~1.6]	
1971~2010年	1.4[1.0~1.9]	*	*	2.4[1.9~2.9]	1.1[0.6~1.6]	2.0[1.7~2.3]
1993~2010年	2.2[0.8~3.7]	3.5[1.2~5.7]	*	3.8[2.5~5.1]	2.8[1.3~4.3]	3.2[2.8~3.6]

I~IVの海域、4海域平均および世界平均の年平均海面水位の上昇率。

上1段は1960年~2018年までの期間で算出した上昇率、下2段はIPCC第5次評価報告書における世界平均の海面水位の上昇率と同じ期間で算出した上昇率を示す。

大括弧[]の範囲は90%の信頼区間を示す。*は上昇率が有意でないことを示す。

■ 朔望満潮位の上昇率

単位: mm/年

	I	II	III	IV	4海域の平均
1960~2017年*	-1.1	-1.8	1.5	2.9	0.7
1971~2010年	0	-3.7	2.2	4.4	0.7
1993~2010年	1.1	0	6.2	9.5	4.7

※最終年は気象庁解析期間と異なり2017年

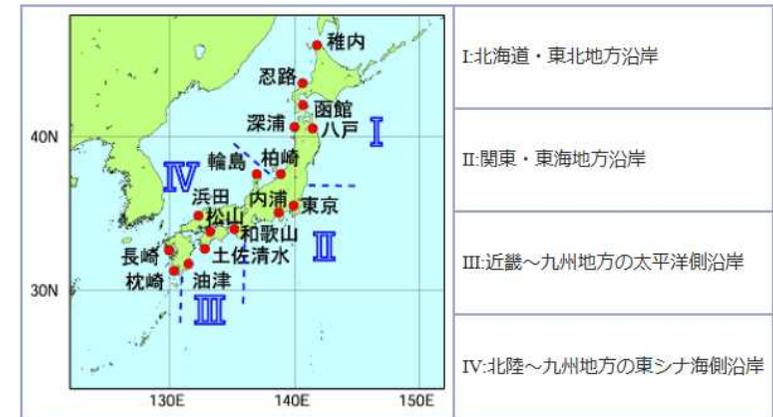
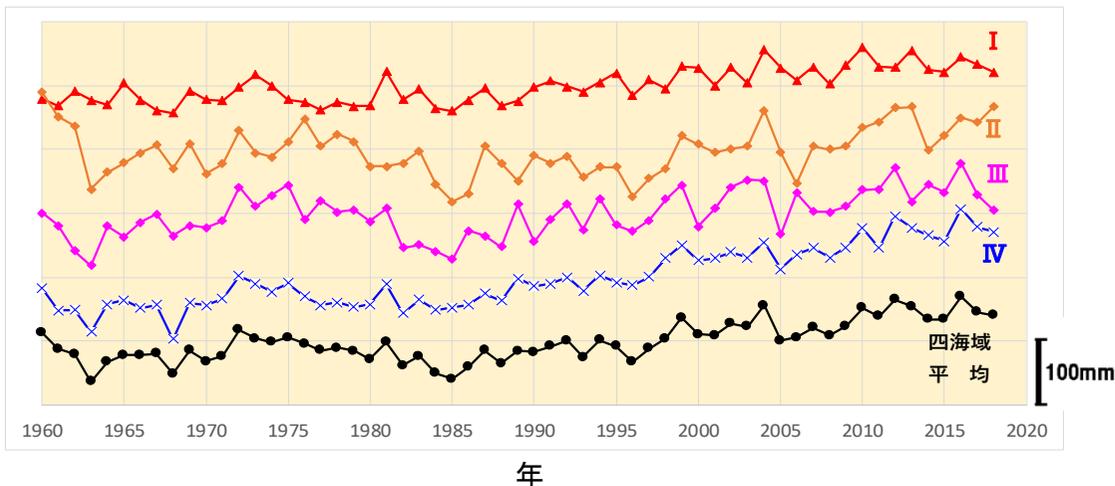
(解析に用いた検潮所)

気象庁が歴史的潮位資料として整理した90地点の観測所から、離島9地点、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の影響を受けた8地点を除外した73地点のデータを用いて、同じ海域区分で解析した。

日本周辺の海面水位及び朔望平均満潮位の変化

- 気象庁の海面水位の上昇率の解析手法と同様の手法で、朔望平均満潮位の平均上昇率を解析した結果、海面水位の上昇率(4海域平均)1.3~2.8mm/年に対して、朔望平均満潮位の上昇率は1.0~2.2mm/年となった。
- 海域や分析期間が異なる条件でも概ね同様の値となった。

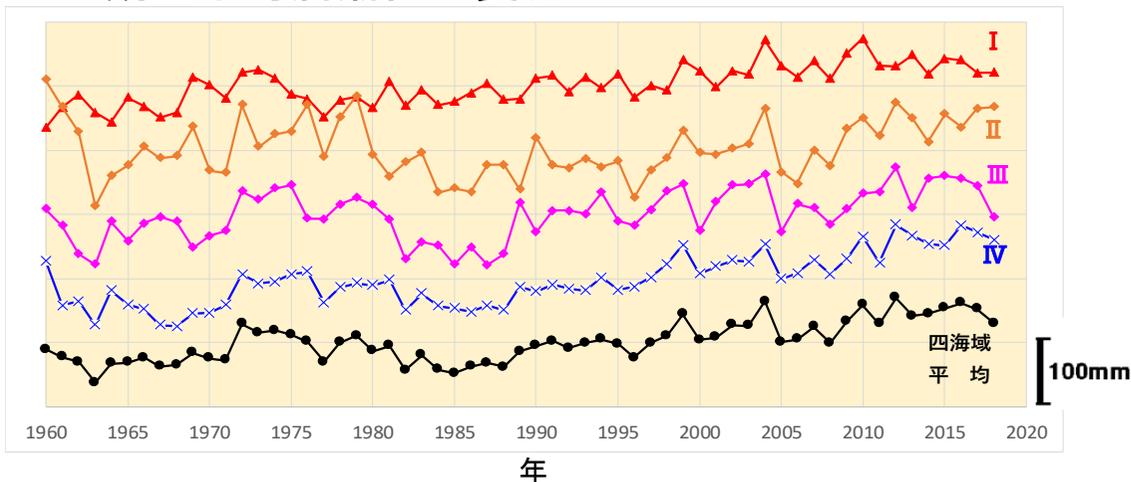
■ 海面水位の変化(気象庁解析結果)



解析に用いた、地盤変動の影響が小さい16地点の検潮所と海域

東京は1968年以降のデータを使用しています。
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の影響を受けた函館、深浦、柏崎、東京八戸は、2011年以降のデータを使用していません

■ 朔望平均満潮位の変化



	I	II	III	IV	4海域平均
上:海面水位					
下:朔望平均満潮位					
1960~2018年	1.2 1.3	* 0.3	1.1 1.1	2.4 1.8	1.3 1.3
1971~2010年	1.4 1.5	* 0.4	* 0.6	2.4 1.6	1.1 1.0
1993~2010年	2.2 3.0	3.5 2.6	* 1.6	3.8 2.7	2.8 2.2

I~IVの海域、4海域平均および世界平均の年平均海面水位の上昇率(mm/年)。
上1段は1960年~2018年までの期間で算出した上昇率、下2段はIPCC第5次評価報告書における世界平均の海面水位の上昇率と同じ期間で算出した上昇率を示す。